

2020年度 北海道大学 CoSTEP 講義一覧



\*事情によって変更になる場合があります。

モジュール	講義日	名前	所属	講義タイトル	講義内容
モジュール1 科学技術コミュニケーション概論	2020/05/17 (土)	川本思心	北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院 准教授	科学技術コミュニケーションとは何か	この一年皆さんが何度も口にするであろう「科学技術コミュニケーション」という言葉。この言葉は、どのような必要性があり、なぜ生まれたのか？ 今、誰にどのように捉えられているのか？ 科学技術コミュニケーションを学び、自分自身がどのような科学技術コミュニケーションになるのかを考えたうえで、「科学技術コミュニケーションとは何か」という素朴かつ根源的な問いには、向き合い続ける必要があります。そのための材料を様々な事例から紹介します。
	2020/05/23 (土)	種村剛	北海道大学 CoSTEP 特任講師	科学技術コミュニケーションにおけるコミュニケーションを考える	私たちは「科学技術コミュニケーション」を学ぼうとしています。それではそもそも「コミュニケーション」とはなんなのでしょうか。この講義では、コミュニケーション概念についての議論を整理し、コミュニケーションおよびその近接概念について説明できるようにすることを達成目標とします。
	2020/06/17 (水)	隠岐さや香	名古屋大学 教授	科学と専門性の歴史	「科学技術コミュニケーション」についての理解を深めるためには、いわゆる「科学研究」そのものと「社会における専門知としての科学が果たす役割」との違いを意識する必要があります。この講義では、科学史の観点から、専門家集団としての科学研究者と社会の関係について論じます。平行して、イノベーション政策等を例に、社会科学を背景とする別の専門家集団が科学者共同体に与える影響についても検討します。
	2020/06/20 (土)	隈本邦彦	江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授	社会の中での科学技術コミュニケーションの役割 ~科学ジャーナリストを例に~	科学ジャーナリストは科学技術コミュニケーションの職業の典型です。科学に関する情報が複雑化・高度化する中で、その役割の重要性は増しているはずですが、現状では残念ながら十分な役割を果たしているとは言えない部分もあります。NHKの医療・災害担当記者としての経験をもとに、科学技術コミュニケーションが社会の中でどのような役割を求められているか、科学ジャーナリズムをめぐるいくつかの具体例を通して考えます。
	2020/06/27 (土)	松王政浩	北海道大学 理学研究院 教授	対話のその前に ~コミュニケーションのための科学哲学~	科学技術コミュニケーションへのアプローチは、「科学者と市民との対話」だけではありません。科学哲学というアプローチがあります。科学哲学は、科学の成り立ちや、科学的方法の前提を分析することに関心がありますが、そうした分析の中には、科学技術と社会の対話のヒントとなるものがあります。因果性や価値判断といった、ふだんあまり深く考えないことから例に、「コミュニケーションに役立つ科学哲学」について紹介します。
モジュール2 表現とコミュニケーションの手法	2020/07/04 (土)	池田貴子	北海道大学 CoSTEP 特任助教	実践入門	科学技術コミュニケーションとして、学びの場であり、その学びを生かす場として「実践」があります。本講義では、CoSTEPでこれまで行ってきた実践をいくつか紹介します。多様な事例から、コンセプトメイキング、ステークホルダー間のコミュニケーション、集客のための広告や情報発信まで、プロジェクトを進める上で必要となる態度や考え方、スキルについて一緒に考えていきます。
	2020/07/08 (土)	早岡英介	北海道大学 CoSTEP 客員准教授	映像メディアと科学技術コミュニケーション	映像は文字情報や論理に頼らない、直感的でユニバーサルな表現方法です。近年のアナログからデジタルへの大きな変革、そしてスマートフォンの普及が、メディアのあり方を大きく変えました。送り手・受け手という概念の消滅、そしてプロとアマチュアの境界線がはっきりしなくなったことで、今まで以上に相手の関心を意識し、どのような伝え方なら共感を呼ぶことができるのか、受け手に対する徹底的な分析が必要となりました。科学技術コミュニケーションに映像メディアをどう活用していくべきか、これまでの実践例を元にお話します。
	2020/07/11 (土)	内村直之	北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 科学ジャーナリスト	サイエンスライティングの基礎	科学技術コミュニケーションにおいて、ライティングは重要かつ基本的なスキルです。まず、「てにをは」から「パラグラフ・ライティング」までの一般的なスキルをしっかりと身に付けましょう。さらに、科学や技術に関する話題を伝えるためのサイエンスライティングでは、科学的な事実を正確に書くだけではなく、読者対象やメディアの種類、社会的な背景を考慮した上で、何をどのように伝えるかを明確にしなければなりません。報道、広報、文化としての科学技術の普及など、ことばを使う科学・技術に対する活動の特徴についても解説します。
	2020/07/18 (土)	古澤輝由	立教大学 特任准教授	プレゼンテーションで伝える	科学技術コミュニケーションだけでなく、様々な場面で活用できるプレゼンテーションの基本的な考え方、技術、スライドのデザインを学びます。自分の伝えたいことをただ伝えるだけではなく、「伝える相手に対する想像力を養うこと」の重要性を理解してもらうことをこの講義の目的とします。このことは、単にプレゼンテーションに留まらず、科学技術コミュニケーション全般に通じる基本的な理念であると考えます。
	2020/08/01 (土)	朴炫貞	北海道大学 CoSTEP 特任助教	アートを通して	多様なメディアを用いて社会に問いかけをするアート。その中でも現代アートは科学技術がもたらす未来を想像して見せています。今を生きている科学技術コミュニケーションは、アートを通してどのようなことができて、どのようなことを行う必要があるのかについて、事例を紹介しながらみなさんと一緒に考えます。
モジュール3 活動のためのデザイン	2020/09/12 (土)	ジュリア・カセム / Julia Cassim	京都市芸繊維大学 特命教授	インクルーシブデザインとは ~除外しないデザインについて考える~	インクルーシブデザインは、デザイン・フォ・オールおよびユニバーサルデザインとともに、人間を最初から最後までデザインプロセスの中心に置くデザインを指します。さまざまなコンテキスト、分野、能力の人々が参加するデザインのケーススタディを通じて、デザインが社会問題に対処する方法を理解し、科学技術コミュニケーションの広がりについて考えます。
	2020/09/16 (水)	後藤拓也	有限会社チエンジ・エージェント	科学技術と社会と人、大局・全体像・本質をとらえる「システム思考」	社会の問題を考えるときに、つい目の前の状況だけを見て要因を考えてしまいがちです。世の中はとて複雑なため、一部だけの視点だけでは、その場しのぎで対症療法的な解決策を繰り返してしまいます。科学技術コミュニケーションにおいても同様です。特にトランスサイエンス問題のような多様なステークホルダーが関わる問題では、全体を俯瞰する視点が必要となります。この講義では、問題の原因を、その出来事のパートナーや背景にある構造、人の心理的な前提までをシステムとして捉え、より本質的な問題解決をめざす「システム思考」を紹介します。
	2020/09/26 (土)	奥本素子	北海道大学 CoSTEP 准教授	誰のための「科学技術コミュニケーション」?	科学技術コミュニケーションは誰のため？そしてそのコミュニケーションは本当に対話したい相手に参加でき、コミュニケーションができる仕組みになっていますか？本講義では、科学技術コミュニケーションを始める前に、科学技術コミュニケーションが調査し、理解しておかなければいけないポイントについて整理しておきます。そして、なぜそれが必要なのかということについて考えます。
	2020/10/03 (土)	世良耕一	東京電機大学 教授	社会貢献をマーケティングに活かす ~コース・リレーテッド・マーケティング~	陰徳を美徳と捉えることが多い日本においては、科学技術コミュニケーション活動を通して社会に貢献しても、そのことを積極的にコミュニケーションして良いかどうか迷われることがあるかもしれません。本講義で、事例を通して、社会貢献活動をマーケティングに活かす「コース・リレーテッド・マーケティング」を学ばれば、社会との関係を俯瞰して捉え、陰徳に縛られずに、社会貢献を積極的にコミュニケーションすることが大切であることがお分かりいただけます。
	e-learning	三上直之	北海道大学 高等教育推進機構 准教授	科学技術コミュニケーションの事例研究	社会の中での科学技術コミュニケーションのあり方を考え、学び深めるための技法の一つに、事例研究(ケーススタディ)があります。多様な関係者の中で科学技術をめぐるコミュニケーションが問題となっている(いた)ケースを取り上げ、資料収集やインタビュー調査などを行い、科学技術コミュニケーションに関する普遍的な論点について考察を深めるやり方です。CoSTEPが刊行している「科学技術コミュニケーション」誌(JJSC)などに掲載された実際の事例研究も参照しつつ、事例研究法のメリットや、活用するためのノウハウを解説します。
モジュール4 トランスサイエンス	2020/9/23 (水)	松山大耕	臨濟宗 大本山妙心寺 退蔵院 副住職	科学技術コミュニケーションと禅 ~人と社会と科学の対話をつむぐ精神~	お寺の長男として生まれ、中学・高校はキリスト教の学校へ。大学では農学部にて修士課程まで研究に取り組み、修行を経て宗教家となった後は世界のリーダーたちと交流をするなど、国や宗教を超えて見聞を広めてきました。これらの経験を通して感じた人や科学のあり方、時代の潮流の視点から、科学技術コミュニケーションにおいて、仏教の教えや禅の精神が果たしうる役割や、その取り入れ方をお伝えしたいと思います。
	2020/10/24 (土)	山口富子	国際基督教大学 教授	社会の中のエマージング・テクノロジー	ゲノム編集技術、AI、自動運転技術、スマートシティなど、先端技術の研究開発が凄まじいスピードで進んでいます。これらの技術は、より良い社会への期待とともに、新たなリスクへの不安を抱かせる。エマージング・テクノロジーの研究開発や社会実装を考える際には、社会科学の視点からはどうアプローチできるでしょうか？社会的ニーズの把握、伝えるための工夫、協働、安全安心といった概念を手掛かりに、エマージング・テクノロジーを社会の問題として捉えてみたいと思います。
	2020/11/07 (土)	田口茂	北海道大学 大学院文学研究院 教授 / 人間知・脳・AI 研究教育センター長	思考と現実とはどのように触れあうか ~哲学と科学の融合~	「ものを考える」ということは、われわれが生きる「現実」とどのように関わり合うのだろうか。哲学も科学も、「現実について考える」という点では変わりがない。では何が違うのだろうか。そこには、われわれが歴史的に辿ってきた経緯がある。哲学と科学は、元は一つだった。近代における両者の分岐を経て、いままた哲学と結びつきつつあるように見える。科学的研究の最前線は、なぜ哲学と結びつくのか？ 神経科学、人工知能(AI)など、いくつかの実例を見ていくことによって、この問いに少しだけ答えることを試みる。
	e-learning	保高徹生	産業技術総合研究所 主任研究員	汚染土壌とコミュニケーション	東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生した 1300万tにもおよぶ除去土壌や除染廃棄物は 2046年には福島県外で最終処分がなされる予定である。また、大規模土木工事等で発生する自然由来重金属類を含んだ土壌、岩等についても、その対策や処分方法が課題となっている。一方で、土は資源である。農地では作物を育む源であり、土木材料でもある。これらの大量の「土」をどのようにマネジメントするべきなのか、その際に「誰と」、「どのように」コミュニケーションが必要なのかについて、みなさんと一緒に考えたい。
モジュール5 多様な立場の理解	11/28, 12/9	藤井哲之進 / 近藤雄生	北海道言友会 / ノンフィクションライター	吃音: 伝えられないもどかしさ	話そうとしても思うように言葉がでてこない吃音。当事者は日常に大きな困難を抱えていますが、周囲には見過ごされがちで、困難を理解してもらえないことは容易ではありません。なぜなら吃音は、それが生じる状況も人によってかなり異なり、またそもそも当事者自身が話す機会を回避することも多いからです。そのような点から、吃音は、単に言葉のやりとりがスムーズにいかないという身体的な問題にとどまらず、他者とのコミュニケーションの性質そのものを捉え得ます。このように、吃音の問題は、その症状や特性を科学や医学のことばで語るだけでは不十分であり、吃音のある人が抱えるより複雑で個別の状況を通してみないとその実態はわかりません。この講義では、吃音当事者の自助グループ言友会の活動や、サイエンスライターとして当事者にインタビューした経験などから、この問題について皆さんと共有したいと思います。
	12/16 (水)	副島賢和	昭和大学 准教授	学ぶことは生きること ~病院学級の現場から~	慢性的疾患で長期の入院を必要とする子どもに学習の場を提供するのが院内学級です。病気を抱えた子どもたちにとって、学ぶことは肯定的な自己イメージを持つことにつながります。このイメージは厳しい治療に向かうエネルギーとなり、辛い体験を納得のいく物語として紡いでいくベースとなったりします。講義では病院学級での事例を紹介しながら、病氣と向き合う子どもとの接し方について深く掘り下げ、コミュニケーションのひとつの有り様について考えます。
	e-learning	後藤裕幸	NHK ディレクター	生きるためのコミュニケーション	NHK Eテレ「ハートネットTV」は、生きづらさを抱えている全ての人に向けた福祉番組です。扱うテーマは病氣や貧困、LGBT、障害、災害、いのちをめぐる問題など多岐に渡ります。近年は、10代の自殺が年間でも最も多いとされる9月1日を前に「死にたい」「学校に行きたくない」という気持ちを語り合い共有する「#自殺31日の夜に。」や、JR東日本と連携した車内広告キャンペーン「生きる支援トレイン」など、番組放送と SNSなど複数のメディアを連動したキャンペーンを行っています。講義ではディレクターの立場から活動事例を紹介し、多様な背景を持つ人と社会のつながりをコミュニケーションの観点から考えます。
モジュール6 社会における実践	2021/12/12 (土)	佐竹輝洋	札幌市役所環境政策課 環境政策担当係長	SDGsを通じた持続可能なまちづくりについて ~SDGs未来都市・札幌の取組~	2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2030年に向けて持続可能な地球を守るための世界共通の目標であり、今、まさに国や企業、自治体などが率先して取組を進めています。しかし、このような目標に我々なぜ取り組まなくてはならないのでしょうか？そこには地球環境への危機感とともに、SDGsという共通言語を使った企業や自治体などの「価値」を生み出す取組へと広がりが生まれています。札幌を事例として、SDGsについて考えてみませんか？
	2021/01/09 (土)	清水修	一般社団法人 アカデミックグループ 代表理事	Academic Groove ~面白くなければ学問じゃない~	研究広報には、大学・研究機関にも制作会社にも担いがいて、それらの協働によって様々なコンテンツが制作されています。私は20年間の出版業界経験と12年間の大学教職員経験に基づき、各学術機関の実態に即した研究紹介コンテンツを制作し続けてきました。それらの制作の際には、研究の「groove(ワクワク感)」を伝えることを基本姿勢としています。書籍と冊子『アカデミックグループ』編集制作や、「講談社ブルーバックス WEBサイト」WPI記事作成などの事例から、様々な関係者とのように調整しつつ、魅力的な企画を実現するの、その中で何が専門性として求められるのか、についてお話します。
	2021/01/23 (土)	菊谷詩子	サイエンス・イラストレーター	科学を視覚化する ~サイエンスイラストレーション~	百聞は一見に如かずと言いますが、科学的な事柄を理解する際、文章とともに図やイラストがあると理解が容易になったり、記憶に残ったりしたことはありませんか？サイエンスコミュニケーションとして、イラストレーションは強力なツールです。身の周りにはサイエンスイラストレーション、その歴史、様々な用途、ニーズに合わせた制作の具体例など紹介し、キャリアパスとしての可能性についても考えていきます。
	2021/01/30 (土)	パレット ブレンダン / Barrett, Brendan F.D.	大阪大学 COデザインセンター 特任教授	Digital story-telling and video briefs	Universities generate knowledge through qualitative, quantitative and performative (modelling experience through aesthetics) methods. Scientific knowledge is generally disseminated to society via scholarly articles in academic journals. In contrast, this presentation shares insights on the implementation of performative methods designed to bridge the boundaries between science and the arts in research communication. Producing video briefs (short 5-minute documentaries), the goal was to "create for impact" and to develop an extensive network of partners involved in content production and dissemination. This was not without significant challenges, but it did reveal much broader realms of possibility for effective research communication than originally envisaged.
	2021/02/02 (土)	CoSTEP教員		CoSTEPの講義を振り返って	CoSTEPで開講された講義を振り返り、「科学技術コミュニケーションの思考」、「情報の分析と行動のための計画手法」、「科学技術コミュニケーション実践」に関わる知識や技能、そして実践事例のポイントを CoSTEP教員が解説していきます。本講義を通して、講義内容の理解を深め、一年間の学びの省察をし、今後の実践活動に活用していくことを目指します。